



プロジェクト名：消滅地域の文化と知恵を守り、価値を伝える

アジェンダオーナー：中屋祐輔

《議事録》

①アジェンダオーナーから提示された、話し合いたいテーマ(課題意識、問題提起)

思い：

集落消滅によりその文化や知恵が消えてしまっていくのを防ぎたい！

原体験：

実家が限界集落にあたり、取引先が最後の酪農家であったりした。

その酪農家が高齢者であったりして、亡くなってしまった場合に、どうするのかという問題意識を持っていた。

- ・東京にいと集落がなくなって行っているということに気づきにくい。
- ・移住が盛んに叫ばれているが、移住だけで限界集落が集落として存続できるのか。
- ・どんなこだわりを持って酪農をやっているのか。それを映像として蓄積して、データベース化していきたい。

課題：

集落が消えていくことに対して、危機感を持つてる人が少ない。

限界集落の生産者が、独自の手法やノウハウを持っていたりする。限界集落の消滅＝このノウハウが消えてしまうことを意味する

→おばあちゃんがなくなった時に、もうあの味は食べられないのか。というのと似たようなイメージ
ex:カツオの薫焼きという技術(ノウハウがなくなる例)

ただ焼くだけじゃなかったり、風の送り方や量であったり、細かなノウハウがあつてからこそできたりする。

- ・ノウハウも含め、インターネット上にないもののが、限界集落に多く存在している
- ・消滅は免れない状態にあるので、どう価値を残していくのか。
→これまで伝承で引き継がれてきて文章として残されてこなかった。テクノロジーが進んだことを活かして、映像という形で残していきたい。
- ・同じようなノウハウでも詳細に差異がある。まずは、それがなくなってしまうというのを防ぎたい
- ・現在活動をしていくにあたり一番困っているのはお金。なくなる場所は把握できるので、あとは行くだけ。

②参加者から出た意見・アイデア

Q: これまでのリサーチの中で、突破口となる事例はあるのか？

A: 「おばあちゃんのレシピ」という名古屋での取り組みがある。

ここは企業がスポンサーになっている。



→家族のDNAとしても1つのレシピも残していくのが重要ではないかと考えている(驚見大地さん)

Q: 行政とは組めないのか？

A: なくなる前提で話しかけるのはどうなんだろう？

- ・小さいコンテンツとして切り分けてビジネスにしていけばいいのでは
- ・人は見せていった方がいい。

Q: 食べる通信のようなコンセプトを参考にしてみるのもいいかも？

A: 食べる通信がコンセプトにしている、「生産者と繋がる」は、この場合だと、生産者が超高齢なので繋がるにもすぐに亡くなってしまいう可能性が高いのでどうだろうか。

→「冥土の土産レシピ」「さよならレシピ」というものを作ってみる

- ・クックパッドにお願いしている
 - ・編み直すというのはプロでないとできないことだと思う
 - ・なぜそこでゆずだけでしか
 - ・このプロジェクトは読み物として面白そう
 - ・アレックスカー(徳島県のみわににいる方)に聞いてみる
- 彼にぶら下がっているリソースを活用してみるのがいいのではないのか
→港の雰囲気壊さないための活動をしている

③アジェンダオーナーに対する貢献やシェアなどの背中を押すひと言

- ・自分のやりたい文脈と同じなので、こんな家族ありますかという紹介ができる

④ネクストアクション、今後の活動の方向性やアイデアなど

- ・いろんな地域にライターを確保していきたい

ノウフィクションのライターさんのつながりが多くある(すみさん)

- ・「さよならレシピ」を作成する

「集落はなくなっちゃったけど、レシピは残す。」というコンセプトのレシピ集

///全体の流れの要約

①集落が亡くなってしまふのはどうしようもないこと。集落消滅を受け止め、いかに集落がもっている価値を残していくのが課題

②限界集落には、ノウハウを持った生産者の方が多く存在する。集落の消滅(住人の死去)＝ノウハウがなくなる ということを防いでいきたい

③映像として、生産者の思いやストーリー、ノウハウ、技術を残していく。また、レシピも同時に残していく。

④実際に継承する人はいないがレシピとしては存在する「さよならレシピ」を作成